

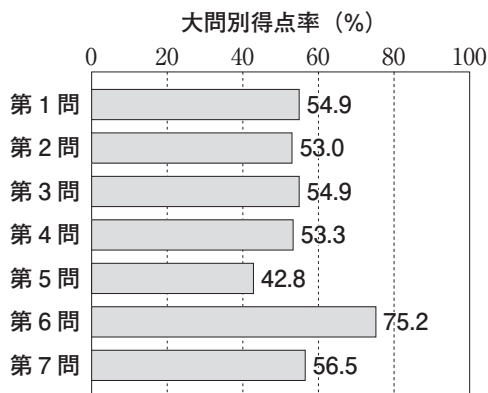
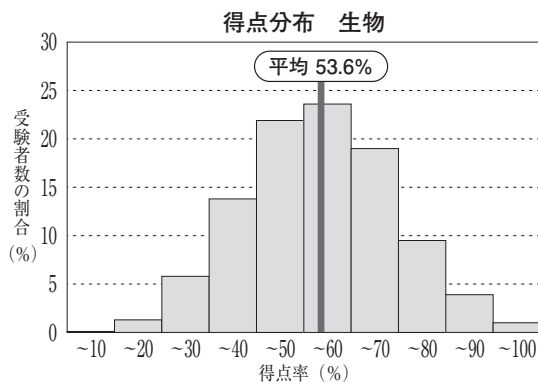
生 物

知識に抜けがないか確認しよう。

I. 全体講評

第3回8月センター試験本番レベル模試生物の平均点は53.6点だった。大問数やマーク数、難易度、大問ごとの出題分野はセンター試験に準じた形をとり、第1問は生命現象と物質、第2問は生殖と発生、第3問は生物の環境応答、第4問は生態と環境、第5問は生物の進化と系統とした。分野に偏りがないよう、教科書全体からまんべんなく出題している。また、第6問と第7問は生物の範囲から選択問題として出題した。今回の模試で平均に届かなかった大問、また他と比べて得点率の低い大問に重点をおいて、しっかりと復習をしておこう。

選択問題（第6問・第7問）のうち、第6問を選択した受験者の得点率の方が高かった。



II. 大問別分析

第1問 生命現象と物質

PCR法および光合成の反応過程に関する知識を整理しておこう。

AはPCR法に関する問題で、問1・問2は基本的な知識問題、問3は計算問題とした。問1の正答率は63.8%であった。いずれも基本的な内容なので、正確に覚えよう。Bは光合成に関する問題で、問4、問5は知識問題、問6は知識をもとにグラフを読み取る問題とした。

第2問 生殖と発生

組換え価を求める過程をしっかりと身につけよう。

Aは動物の配偶子形成に関する出題で、問1・問2は知識問題、問3は実験考察問題とした。問3の正答率は80.9%であった。問題文から得られる情報を整理する訓練をしておこう。Bは連鎖と組換えに関する出題で、問4～問6の正答率はそれぞれ61.5%、55.4%、52.1%であった。組換え価を求めるには段階を踏んで進めなくてはならない。自分の手を動かして演習しておこう。

第3問 生物の環境応答

筋収縮のしくみについて正確に理解しよう。また、花芽形成に関する知識を整理しておこう。

Aは筋肉の構造および収縮のしくみに関する知識問題で、問3の正答率は65.1%であった。知識を正確なものにしておきたい。Bは光周性に関して出題した。問5は基本的な知識問題、問6は図示された実験結果を読み取る考察問題で、問6の正答率は79.4%であった。代表的な短日植物、長日植物、中性植物を覚えておこう。

第4問 生態と環境

個体群の成長と密度効果に関する知識を整理しておこう。

Aは多様性指数について出題した。問1～問3の正答率はそれぞれ72.7%、41.4%、61.1%であった。Bは個体群の成長に関する出題で、問4、問5は基本的な知識問題、問6はグラフの読み取り問題であった。正答率はそれぞれ32.5%、79.7%、32.3%であった。

第5問 生物の進化と系統

生物の変遷に関する知識を整理し、分子系統樹の作成についての理解を深めておこう。

Aは生物の変遷に関する知識問題を出題した。問1～問3の正答率はそれぞれ38.5%、51.5%、32.8%であった。Bは分子系統樹の作成に関する出題で、正答率はそれぞれ73.9%、21.0%、39.3%であった。

第6問 花粉管の誘因

被子植物の配偶子形成と重複受精に関する知識をまとめておこう。

実験から判断できることとできないことの区別をしっかりとつけよう。

第7問 繊毛運動

複数の単元にまたがる出題にも慣れておこう。

実験結果と矛盾する記述と矛盾しない記述を区別し、後者をさらに結論としてよい記述と推定に留まる記述に区別する訓練をしておこう。

Ⅲ. 学習アドバイス**◆教科書の知識をしっかりと押さえよう。**

センター試験では、教科書の全範囲からまんべんなく出題され、基本的な知識問題だけでなく、実験考察問題や計算問題などが出題されることもある。これらは、単なる知識の暗記だけでは対応できない。問題文を読みこなし、データを解析し、知識をもとに考察する力が必要となる。教科書の用語やグラフなど基本的な内容をしっかりと理解し、正確な知識を身につけることを目標に、学習を進めてほしい。無理なく高得点を狙えるよう、残りの時間を計

画的に学習していこう。

◆模試を活用しよう。

センター試験の形式や文章表現に十分慣れ、出題傾向やレベルをつかんでおくことは重要である。そのため、できるだけたくさんの問題に取り組んでおくことが得点力のアップにつながる。ぜひ、模試や過去問を積極的に活用してほしい。